

P



高等学校から見た 大学初年次教育への期待



京都府立鳥羽高等学校 等 進路指導部長 田中誠樹

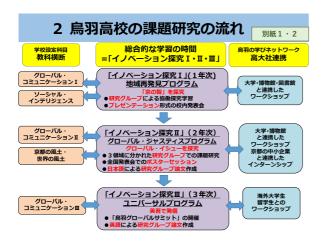


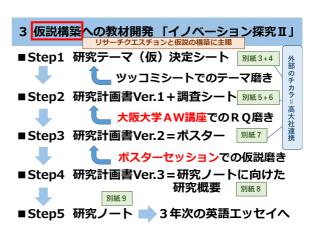
報告内容

- 1 鳥羽高校概要
- 2 鳥羽高校の課題研究の流れ総合的な学習の時間=「イノベーション探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
- 3 仮説構築への教材開発 「イノベーション探究Ⅱ」
- 4 課題研究における高大社連携の推進
- 5/鳥羽高校の課題研究を実践しての思い
- 6 高大社連携の進化へ



2014年3月卒	2015年3月卒	2016年3月卒	2017年3月卒	2018年3月卒
1	2	2	0	1
0	0	1	0	0
1	2	1	0	0
63	66	96	80	50





4 課題研究における高大社連携の推進

- (1年) 委託 -ション探究 I 」
 - ・資料論・地域遺産論(京都文化博物館) ・フィールドワーク入門(福知山公立大学) ・チームビルディング(京都光華女子大学)
- ■「イノベーション探究Ⅱ」(2年) ・鳥羽高校の課題研究について(京都光華女子大学)

 - 博物館の仕事いろいろ(国立民族学博物館) 経営者インターンシップ(京都中小企業家同友会) アカデミック・ライティング講座(大阪大学)
 - ・ポスターセッションリハーサル(大阪大学)
- ■「イノベーション探究Ⅲ」 (3年) ・鳥羽グローバル・サミット

21ヶ国33名の海外大学生・京都で学ぶ留学生が参加

(シンガポール国立大学、復旦大学、京都府名誉友好大使、きょうと留学生ハウス等)

4 課題研究における高大社連携の推進

現2年生の変容の姿(生徒記述より)

- T A の方から「高校生だからこその考え方や視点 があると思う」との意見をいただいて、高校生とし て自信をもって発信していいんだと思えた。
- ○アカデミック・ライティングを学んで、まだまだ 先のことだと思ってた論文っぽい文章を、自分で書 けたのがうれしかった。





4 課題研究における高大社連携の推進

現2年生の変容の姿(生徒記述より)

- ○大学の先生やTAの方々に直接教えてもらうこと で説得力が増した。また、課題研究や将来の研究に 対する意欲がわいた。
- ○筋道を立てて考えたり、話したりできるように なった。また、それが楽しい。





5 鳥羽高校の課題研究を実践しての思い

鳥羽高校の課題研究の割り切り

- ①高校では研究の型や作法の修得をめざす リサーチクエスチョンと仮説の構築に主眼 研究の内容・質にはハイレベルを求めない 教員の過干渉→生徒の負担感→研究嫌いに
- ②高校ではグループによるチーム探究を行う 人員配置、予算上の限界↔協働力向上
- ③外部のチカラ=高大社連携で進める 探究意欲・キャリア意識向上、教員もレベルアップ

5 鳥羽高校の課題研究を実践しての思い

鳥羽高校から大学への期待

- ①高校では研究の型や作法の修得をめざす
- →大学で内容や質の深化をさせてやってほしい
- →入試(高大接続)で高度な研究が要求される不安
- ②高校ではグループによるチーム探究を行う
- →個人探究の醍醐味・重要性にも気付かせてほしい
- →メリット・デメリットを学術的に研究してほしい
- →入試(高大接続)での評価が不安
- ③外部のチカラ=高大社連携で進める
- →探究意欲、キャリア意識を伸ばしてやってほしい
- →大学での学生の変容を学術的に研究してほしい
- *信念をもって実践しているが確証がないのが不安

6 高大社連携の進化へ

鳥羽高校 次の課題

大学・企業等と協働するコンソーシアムの構築

これまで実施してきた個々の高大連携、高社連 携を有機的に関連付け、将来の地域ビジョン・求 める人材像・付けたい資質・能力を共有する協働 プログラムの研究開発を推進

=目標を一致させる

カリキュラム・マネジメント

ご清聴ありがとうございました